

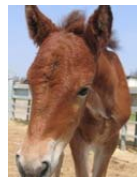
馬の10年後のイメージ

乗馬の普及を通じて、国民の皆様には豊かさをお届けします。

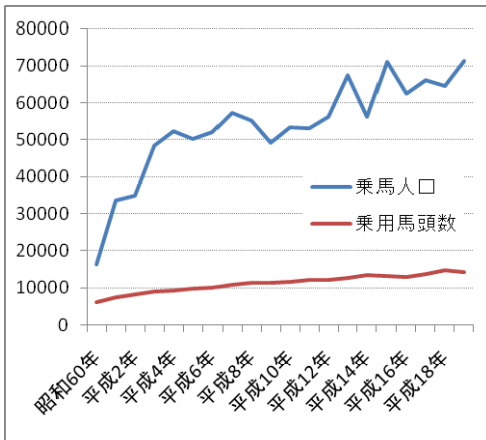
乗馬は人に楽しみ・やすらぎ・癒しをもたらします。最近では、乗馬を教育や治療、地域振興に使うなど、多様な試みが進められています。

乗馬人口は年々増え続けており、乗りやすい温順な乗用馬の増殖を進めます。

乗馬を通じた教育、馬と触れ合うことによる治療「ホースセラピー」、トレッキング・伝統芸能といった馬を軸にした地域おこしなどの取組を支援します。



興奮しやすい競走馬ではない、温順な乗用馬が求められています。



健康増進だけでなく、情操面でも、自分より大きな動物を従わせる方法を学びます。

乗馬を体験して「初めて笑顔を見せた」という障害者の方も。



大自然の中を馬と一緒に散歩するトレッキングや、馬を使った地域文化が、観光誘致・地域振興に一役買っています。



さらにエキサイティングな競馬を実現します。

競走能力と心肺機能を科学的に分析し、そのデータをもとに馬を育成することで、強い馬によるダイナミックな競馬を皆様に提供します。

それぞれの馬の「速度と心拍数」のデータも参考に調教・選抜・改良を進めます。

心拍数200回/分のとき



30km

33km

35km



世界に通用する馬づくりで見応えのある競走を提供



強い馬が演じる迫力あるばんえい競馬(そり引き競走)

馬の利用を進めることによって、国民の皆様には精神的に豊かな生活を提供するとともに、馬生産農家の皆様の経営安定を図ります。

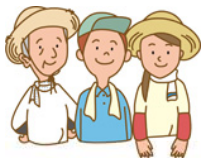
科学的データを用いた育種改良方法について研究を進めます。

ヒツジ・山羊の10年後のイメージ

ヒツジ・山羊の放牧を通じて、地域を元気にします。

ヒツジ・山羊は、戦後、化学繊維や牛乳などの代替品の台頭により急速に頭数が減りました。しかし、最近は、頑強で手間がかからず、やせた土地でも飼うことができるといった特性が見直され、また、特色ある畜産物へのニーズも高まり、様々な地域活性化につながる取組が進められています。

少ない頭数でも効率的に増殖できる体制を構築し、需要に応じた増頭を進めます。

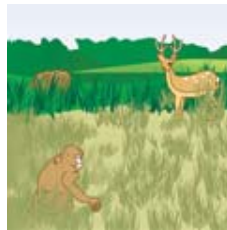


全国の飼養農家による生産協議会の立ち上げ、効率的な種畜の供給

研究所や行政機関による人工授精、放牧管理等の技術供与



ヒツジ・山羊の高い放牧適性を活かして、地域おこしの取組をすすめます。



- ・耕作放棄
- ・鳥獣被害

- ・見通しが良くなり野生動物が忌避
- ・放牧景観による観光誘致
- ・畜産物でまちおこし



焼尻島のラム肉は国内外のフランス料理店から非常に高い評価を受けています。



山羊乳チーズ(十勝)柔らかく、独特の酸味、甘みがあります。

「楽しさ」も皆様にお届けします。

毛を利用したモノづくり、ふれあい体験、放牧による景観維持など、食品生産だけでない多面的な効果を発揮しています。



羊毛を使ったマスコット作りは子供たちにも人気です。



子ヤギとの散歩を体験できるふれあい牧場。



ヒツジのいる風景は見ていだけで癒されます。

国民の重要なタンパク源としての畜産物供給から、動物の持つ「楽しさ」の活用まで、畜種の特性に応じた幅広い取組を進めます。

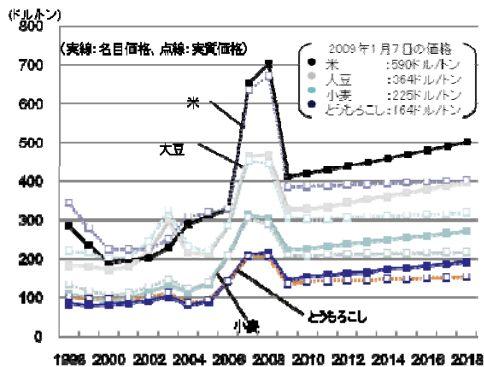
乳牛、肉牛、豚、鶏、馬、ヒツジ、山羊と続けて改良増殖の目標をご紹介しましたが、このような取組を成功させるためには、各農家、地域毎の不断の努力が必要です。

畜産農家の皆様へ ～ 畜産経営の生産性・収益性向上は、永遠の目標です。

健全な経営で、個々の農家が家畜の能力を十分に引き出す必要があります。

コストを意識した健全な経営の中で、適切な衛生・飼養管理技術を導入することにより、優秀な家畜の能力を十分に発揮させることができます。

世界の穀物需給はひっ迫基調で推移すると予測されており、飼料費を中心に、経営コストの削減が必要です。



- ・A3程度で出荷する代わりに飼料費を節約する和牛肥育経営
- ・乳牛を長く使う酪農経営
- ・食品残さ、飼料用米や放牧など、地域に存在する飼料資源を活用した経営
- ・飼料槽の改良による食べこぼしの防止



衛生・飼養管理技術の導入は、気候風土、経営規模、などを考え、効果が期待できるものを選ぶ必要があります。

- ・給餌技術
- ・畜産物の量・品質向上
- ・繁殖性の向上
- ・衛生水準向上

(導入が容易で、実際に農家で効果が見られている例)



(暑熱対策)牛舎脇につる性の植物を植え、西日を遮断 (室内温度 1.5℃低下)



(乳頭洗浄機)乳房炎に悩まされていた農家では、新規発症が約半分になった例も。

カップ内のブラシで乳頭を洗浄。洗浄水供給・汚水排出の2系統のホース

経営方針にあった家畜を導入することが重要です。

個々の農家で方針をしっかりと定め、それに合った家畜をデータできちんと確認した上で導入することが、経営のステップアップにつながります。



飼料を多く使っても、高品質の畜産物を大量に生産したい。



乳量 12,000kg/年
乳脂率 4.0%



土地はあるけど人手がないので、省力管理したい。



肢蹄が強い
放牧向け体型
乳量 7,000kg/年

血統登録や牛群検定に参加して、個々の牛の能力をチェックすることが重要です。



改良された家畜も、良い環境で飼われないとその能力を発揮できません。

個々の農家の取組ももちろん重要ですが、地域ぐるみの活動も大切です。

地域でがんばる畜産関係者、改良関係者、行政関係者の皆様へ

地域の特色等を活かした多様な家畜が求められています。

消費者のニーズは多様化が進んでおり、「作ったものを売る」のではなく、「売れるものを作る」意識を各地域でも共有してください。今後の消費社会では、特色ある畜産物生産を通じて、消費者の新しいニーズを常に開拓していく必要があります。

十分に家畜の頭羽数が存在する地域では、社会・地理的条件に応じた家畜改良に取り組むことも一案です。

ターゲットとする顧客層のニーズにあった、特色ある交配の計画を立てることが重要です。

水田地帯がある



飼料用米
利用性の高い家畜

「安心の国産米で
つくった」畜産物



草地資源が豊富

放牧適性の高い牛
粗飼料利用性の高い牛

「自然で育てた」
牛肉/牛乳



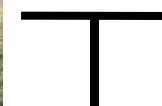
味の良い鶏肉を
お手頃価格で使
いたい。



(日本在来種)
肉質は良いが生産性が
低く、採算をとるのが困難



(一般的な鶏)
発育が早く、
繁殖性がよい



一般的な鶏より肉質が
良く、ある程度の生産
効率も期待できる。



(地鶏)

「普及」は研究開発と現場をつなぐ、重要な橋渡し役です。

関係者一丸となって、畜産の現場に、有用な技術、新しい経営スタイル、優秀な新種畜などの情報をわかりやすく伝えましょう。

畜産農家と地域産業とのマッチングによるエコフィードの普及



パンの耳
野菜カットくず

飼料化処理



地域交流会などの機会をとらえた、新しい種畜などの情報提供

個々の農家の状況に応じた課題の診断と、解決策の提示

- ・早期離乳
- ・オールイン・オールアウト
- ・HACCP



家畜の改良増殖には、長い年月と多くの人々の労力が必要です。

関係者一同、家畜改良増殖にためまめ努力を続けますので、国民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

家畜改良増殖目標研究会委員

(乳用牛)

青木 美郎 (社)日本乳業協会専務理事
 大藪 真裕美 酪農家
 門谷 廣茂 (社)中央酪農会議専務理事
 川上 修 北海道農政食品の安全推進局畜産振興課課長
 近藤 康子 サントリービジネスエキスパート(株)VOC推進部顧問
 齋藤 新一 (社)家畜改良事業団理事
 高橋 博人 (独)家畜改良センター新冠牧場場長
 鈴木 三義 帯広畜産大学畜産生命科学部研究部門教授
 富樫 研治 (独)北海道農業研究センター研究管理監
 藤村 忠彦 (独)日本ホルスタイン登録協会専務理事
 吉川 広司 家畜人工授精事業体協議会代表
 渡辺 浩一 (社)ジェネティクス北海道専務理事

(肉用牛)

上安平 冽子 (株)NHKグローバルメディアサービス企画事業部ジャーナリスト
 北野 良夫 鹿児島県畜産課課長
 鈴木 稔 (独)家畜改良センター鳥取牧場場長
 樋澤 正志 (社)岩手県農畜産物価格安定基金協会専務理事
 新山 正隆 社団法人家畜改良事業団専務理事
 野村 哲郎 京都産業大学工学部生産工学科教授
 平位 修一 全国農業協同組合連合会畜産総合対策部長
 開 俊彦 (社)熊本県畜産協会専務理事
 船本 富弘 (社)日本食肉格付協会専務理事
 古川 力 (独)九州沖縄農業研究センター研究管理監
 萬野 修三 農業生産法人(有)上旭肉牛牧場代表取締役
 吉村 豊信 (社)全国和牛登録協会専務理事

事務局 (社)中央畜産会
 農林水産省生産局畜産部畜産振興課

(豚)

伊東 依久子 消費者連合会副会長
 入江 正和 国立大学法人宮崎大学農学部食料生産科学科教授
 木下 良智 (財)競馬・農林水産情報衛星通信機構常務理事
 小磯 孝 (社)日本養豚協会常務理事
 佐藤 正寛 (独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所
 家畜育種増殖研究チーム上席研究員
 土屋 純夫 静岡県産業部畜産振興室長
 西馬場 茂 全国農業協同組合連合会参事
 福原 邦彦 日本ハム株式会社食肉事業本部国内食肉生産事業部
 執行役員、部長
 星 正美 有限会社星種豚場
 堀江 光洋 (社)千葉県畜産協会副会長
 分部 喜久男 (独)家畜改良センター茨城牧場場長

(鶏)

伊藤 裕和 愛知県農業総合試験場畜産研究部長
 大伏 由利子 消費科学連合会副会長
 岡村 勝 JA全農たまご(株)専務取締役
 西塚 修悟 (社)日本食鳥協会 参与
 島田 英幸 (社)日本養鶏協会専務理事
 都丸 高志 (株)トマル代表取締役社長
 菡澤 圭二郎 (独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所
 家畜育種増殖研究チーム長
 野村 哲朗 京都産業大学工学部生物工学科動物育種学専攻教授
 日比野 義人 (株)後藤卵孵化場代表取締役社長
 山本 達雄 (財)日本ハム・ソーセージ工業協同組合専務理事
 山本 満祥 (株)山本養鶏孵化場代表取締役社長
 山本 洋一 (独)家畜改良センター兵庫牧場場長

(馬)

雨宮 敬徳 地方競馬全国協会理事
 柏村 文郎 帯広畜産大学畜産生命科学部研究部門教授
 草野 信一 (社)全国乗馬倶楽部振興協会専務理事
 佐々木 啓文 農業生産法人(有)帯広ファーム場長
 佐藤 文俊 十勝農業協同組合連合会専務理事
 塩田 忠 (財)日本軽種馬登録協会専務理事
 鈴木 一男 (独)家畜改良センター十勝牧場場長
 西村 啓二 (社)日本軽種馬協会副会長
 水野 豊香 日本中央競馬会理事
 安武 正秀 (社)日本馬事協会常務理事

(めん山羊)

河野 博英 (独)家畜改良センター十勝牧場衛生課長
 斉藤 真 農業生産法人有限会社ランラン・ファーム
 中西 良孝 鹿児島大学農学部生物生産学学科教授
 羽鳥 和吉 (社)畜産技術協会
 武藤 浩史 めん羊生産者
 元村 聡 (独)家畜改良センター茨城牧場場長野支場長
 山内 和律 北海道立畜産試験場中小家畜飼養科科長

作成協力

写真提供: (社)畜産技術協会(豚、ヒツジ等)、養豚協会(豚)
 株式会社ニチレイフレッシュ(たつの)
 岐阜県畜産研究所(奥美濃古地鶏)、福岡県農業総合試験場(はかた地どり)
 JRA(競走馬)、ハッピーネモファーム(競走馬、乗馬)、WWRC(乗馬)
 岐阜県中津川市ふれあい牧場(ヤギ)、ランランファーム(ヤギ)
 北海道庁(ブラウンスイス)
 (独)農業・食品産業(乳頭洗浄機)、(独)家畜改良センター

イラスト提供:  (本ページ右下のタッチのもの、<http://homepage2.nifty.com/mukohara/>)

(参考)第9次家畜改良増殖目標(案)の主な数値目標

乳用牛

<雌牛> (遺伝的改良量)
現在の改良量を
引き続き維持

乳量: (+113kg/年)
乳脂肪: (+2.6kg/年)
無脂乳固形分: (+9.2kg/年)
乳蛋白質: (+2.9kg/年)

<種雄牛> (遺伝的改良量)
現在の改良量を
引き続き維持

乳量: (+137kg/年)
乳脂肪: (+3.1kg/年)
無脂乳固形分: (+10.9kg/年)
乳蛋白質: (+3.3kg/年)

肉用牛 黒毛和種のみ抜粋(褐毛和種、日本短角は省略)

<去勢肥育牛(参考)>
肥育終了体重: 725kg → 710kg
1日平均増体重: 0.72kg/日 → 0.82kg/日

} 約26ヶ月齢
出荷に相当

<種雄牛>
(育種価)日齢枝肉重量: +53(対平成13年度比)
※出荷月齢の約1割の短縮に相当
(育種価)脂肪交雑: ±0(対平成13年度比)

<繁殖牛>
初産月齢: 24.5ヶ月 → 23.5ヶ月
分娩間隔: 13.3ヶ月 → 12.5ヶ月
体型: 体高130、胸囲190、かん幅48 (cm、成熟時体型)

馬

繁殖開始年齢2才の割合: 41% → 50%
受胎率: 75%

豚

<純粋種豚(デュロック種で例示)>
育成頭数: 8.9 → 9.4頭
1日平均増体重: 870 → 1,000g
ロース芯太さ: 41 → 41 cm²

<肥育もと豚母豚(参考値)>
1腹当たり生産頭数: 10.5 → 11.0頭
育成率: 89 → 95%
年間分娩回数: 2.2 → 2.3回

<肥育豚(参考値)>
出荷日齢: 195 → 183日
出荷体重: 112 → 113kg
飼料要求率: 3.0 → 2.9

卵用鶏

産卵率: 84 → 86%
卵重量: 62 → 61 ~ 63g
日産卵量: 52 → 52 ~ 54g
50%産卵日齢: 147 → 145日
飼料要求率: 2.1 → 2.0

肉用鶏

49日齢時体重: 2,700 → 2,800g
育成率: 97 → 98%
飼料要求率: 2.0 → 1.9

めん山羊

めん羊: 1腹あたりの離乳頭数: 1.4 → 1.5頭
山羊: 総乳量: 433 → 600kg